

失墜行為」をしてはなりません。人格の完成を目指す（教育基本法第一条「教育の目的」）教育は、人と人との信頼を基軸にした営みですので、教職員は、犯罪や人権侵害、体罰、重大な過失、子どもを傷つける言葉など、「信用・信頼」を損なう行為を厳に戒めなければならぬのです。

これは、教職員の「信用失墜行為」に対する、教職員の方への切なる提言です。

教職員の自戒を求めるとともに、大多数の教職員は、日々、誠実に頑張っていることを、親御さんをはじめ、学校に集うすべての方に、何としてもご理解をいただきたいと存じます。繁忙な学校教育現場ですが、児童・生徒ときちんと向き合い、地道な教育実践を重ねている教職員が決して少なくないのです。

この点については、立科小学校も立科中学校も、蓼科高校も例外ではありません。三校に奉職する教職員の方々は、試行錯誤の繰り返しの中で悩み苦しみながらも、教育活動に粘り強く取り組み、「立科教育」を力強く推進されていると思います。その思いを、奇しくも教職員の「信用失墜行為」が報じられた10月11日、立科小学校の家庭科研究授業及び授業研究会に参加させていただいた折に、なおいっそう強く致しました。

先生は、このような教職員の誠実な張りによって、まさに課題と難題が山積し、危機的状況と言われてから久しい今日の日本の学校教育が、何とか「今」を維持していると確信しています。

そのため、教職員の「信用失墜行為」を報ずる記事に接するたびに、やり切れない思いにかられると同時に、ごく一部の不心得な教職員の背信行為がクローズアップされ、大多数の、誠実に頑張っている教職員まで同一視されてしまう社会の風潮がまことに歯がゆく、残念でなりません。



翻って考えてみますと、今日の日本は、次のような事件や出来事が、連日のように報道されています。

政治家の失言。医師の診療ミス。警察官の犯罪。公務員の職務専念義務違反。研究者の論文盗用。医科大学の臨床データ操作・製薬会社との癒着。大学教授の

研究費不正受給。副町長主導の人口水増し。食品販売業者の賞味期限改ざん。消防団員の放火。福島第一原発の高濃度汚染水の海洋流出。ニュースキャスターの痴漢行為。民間テレビの申告漏れ。テレビ局ディレクターの器物損壊。通信社の写真誤配信。列車運転士のA.T.S破壊。化粧品の健康被害。過去最多となった70歳以上の犯罪。児童虐待の児童相談所への通告、初の1万人超。過去最高の奨学金未返済金額。基準値の10倍以上の農薬散布。スポーツ界の暴力・セクハラ。殺人。死体遺棄。……。

一部に、罰則を厳しくしようが、何度通達を出そうが、研修を重ねようが、周囲への迷惑を一顧だにしない、前述の報道事例のような不逞の輩がいるのです。教職員の「信用失墜行為」も、まったく同じ構図で起こっていると思います。或る方が、教師の体罰について、「冷静さを失わない指導を……。」と述べていましたが、「冷静さ」という視座で、教職員の「信用失墜行為」を考えますと、圧倒的多数の教職員は冷静で、ごく一部の、ほんのわずかな不心得な人だけが、冷静さを欠いているのです。

このような事案の背景にあるものは、日本人全体の内面道徳的価値観の変調と一部の極端な荒唐ではないでしょうか。職業には、それぞれの目的や任務があり、それゆえに、絶対に守らなければならない、職業に応じた基本的な倫理があります。そして、大多数の方は、この職業倫理を遵守し、自分の役割を全うしています。しかし、その反面において、たとえば、「個人の命と財産を守り、犯罪の予防を任務とする警察官の犯罪」や「事実に基づいた客観報道を使命とするマスメディアの誤報・虚偽報道」など、絶対に守るべき職業倫理をいとも簡単に破ってしまう不屈な者がいます。

そこで、学校教育に対する強い逆風を感じつつ、学校に集うすべての方に、「教職員の『信用失墜行為』は、日本人全体の『道徳的価値観』の多極化の問題ととらえるべきで、風評や一部の扇動的な報道などに押し流されて、いたずらに教職員批判に走らないようにしましょう。」とお願い申し上げます。

児童・生徒がより充実した学校生活を送るために、学校は「社会の縮図」であり、学校教育は社会の同心円上にある、という客観的で、受容的な姿勢で、ぜひとも、学校教育を温かく見守っていただきたいと存じます。

学校教育の場には、誠実に頑張っている教職員が大勢いるからです。